

SAKASO

「さかそう」

ご自由にお持ちください

特集 先生に聞いてみよう

フットケア診療のこと。



2021.8 Vol.49

お知らせ

メンタルヘルス科(心療内科・精神科)を新設しました

こころの問題は目に見えないもの。そして実は体の不調の原因がこころの問題にあるというのは非常に多いものです。しかし、同じ病気でも一人ひとり症状は異なります。そのため私たちは、患者さんの状況をしっかりとつかみ、マニュアル通りではないそれぞれに最適な治療を心がけていきます。公認心理士による心理検査やカウンセリングも可能です。「こんなことで受診していいのかな?」と思わず、気軽に受診ください。

※初診時紹介状は不要ですが、お薬手帳は忘れずに持参してください。

こんな悩みはありませんか?

(16歳以上の方)

- ぐっすり眠れない
- 職場や家事育児で強いストレスを感じる
- 介護疲れがひどい
- コミュニケーションに自信がない
- 通院先を当院にまとめた
- 余震が怖く、不安など



診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただきご確認をお願いいたします。

コールセンター 022-361-8288

- 平日 8:30～16:30(小児科のみ8:00～)
- 土曜 8:30～11:30(小児科のみ8:00～)

※日曜・祝祭日、年末年始(12/30～翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

- ◎紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
- ◎上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院 🔍 検索 <https://www.m-kousei.com/saka/>

表紙について

雨の中で行った今回の撮影。しかし、シャープな雰囲気、建物が雨に濡れて深みを増し、実直な先生のイメージを引き立てる印象的な写真となりました。

●表紙撮影／東北歴史博物館



電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。

お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は無料です。第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

SAKASO

坂総合病院 広報誌「さかそう」
2021年8月1日発行

公益財団法人宮城厚生協会
坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5 <https://www.m-kousei.com/saka/>
【広報誌に関するお問合せ】Tel 022-365-5175(代)



.....
毎回特集内容を変え、
病気や病院のあれこれを発信。
今回は、「フットケア診療」
についてご紹介します。
.....

特集

先生に
聞いてみよう

フットケア診療 のこと。



塩釜市を中心に地域の
医療を支える坂総合病院。
適切な治療と高度な技術で
人々を支えています。
今回は、チームで取組む
フットケア診療について
連携を束ね、牽引する
佐々木医師に聞きました。

佐々木 伸也（ささき しんや）

岩手県出身。群馬大学医学部卒業後、坂総合病院へ入職。臨床検査技師だった父親から「医師はやりがいのある仕事」と教えられたこととブラックジャックへの憧れから医師の道へ。坂総合病院にフットケア診療の基礎をつくりあげた一人としてその発展に力を注ぐ。

「歩けなくなる」を フットケアで阻止したい

私の専門は下肢の難治性の潰瘍や血流障害、動脈硬化が原因で起きる血管の詰まりなどの「末端血管疾患」。下肢に血流障害が起こると筋肉が衰え歩行が困難になるばかりでなく、小さくささいな傷から大きな傷への悪化、壊疽や感染に発展します。その昔、これらの疾患には有効な治療法の選択肢が少なく、足の切断を余儀なくされる患者さんが多くいました。足の切断は生活に困難をもたらし、日常生活の質の悪化や寿命の低下も招きました。そうした時代を経て私たちが取り組むのが、多岐にわたる足のトラブルを多面的・総合的に治療・管理し、切断回避により歩行機能を維持するフットケアです。

様々な職種が連携して 患者さんを救い、支える

フットケア診療は一般的に科別・臓器別の医療とは少し異なり、多職種の連携が必要で

例えば患者さんにガンが見つかった場合、外科医が手術と術後管理を担当して退院を見届けますが、フットケア診療にはまず皮膚や傷の専門家である皮膚科医や形成外科医が必要です。そこにカテーテルを使った血管治療の専門家・循環器内科医が加わります。患者さんが透析や糖尿病を患っている場合は血糖・透析管理に詳しい専門医や歩行能力を高めるためのリハビリ専門スタッフも必要ですし、傷の処置や爪切り、足浴、スキンケアなどを行う認定看護師、義足をつくる装具技師、退院調整を行うソーシャルワーカーなど多くのスタッフが連携することになります。

治療の基礎を築いたのは 専門領域に捉われない姿勢

近隣のクリニックではかつて外来透析管理をしている患者さんのうち毎年数人が膝上または膝下の切断（大切断）をしていました。しかし当院でフットケアチームを立ち上げ、紹介いただく患者さんの治療を始めてから、足を切

断する患者さんの数は「0」に。クリニックの先生からその結果を報告されたときは大きなモチベーションになりました。

通常、私のような循環器内科医が診るのは心臓です。しかし東北でも3本の指に入る症例数を経験することで足の傷、爪、血管に詳しくなり、かなり踏み込んだ傷の処置までできるようになりました。栄養管理やリハビリの指導にも関心を持って取り組み、透析管理も自ら行っています。こうして様々な知識を習得しながらフットケア診療の道を作り上げてきたのです。

様々な環境を整備しながら フットケアを発展させたい

足に痛みを自覚すると、患者さんは一般的に整形外科を受診しますが、そのうち末梢動脈疾患の患者さんが4割含まれるとの報告があります。そのため私が整形外科医に推奨するのがABI検査。ABI検査とは両手・両足の血圧を同時に測ることで足の血流障害を発見できるというもの。

簡便かつ安価に短時間ででき、非常に感度の高い検査のため、積極的に行ってもらえるよう啓蒙を進めているところです。

当院は今、チームでフットケアに取組む病院として全国的な知名度を得ることができました。日々フットケア診療の見学に訪れる他施設のスタッフも多くいますし、フットケアおよびカテーテル治療の研修医も複数輩出しています。しかし当院のようにひとつの病院で多職種がつながるにはハードルが高いのも確か。そのため、各病院の特色を見据えた連携の取り方もあると思っています。またスタッフのモチベーション維持や教育についても考えつつ、東北にフットケアを根付かせる活動を続けていきたいです。



#7 歯磨き中も感染対策が必要？

高山 綾子 (たかやま あやこ)／感染制御実践看護師

Q

歯磨きをした時の飛沫に感染リスクがあると聞きました。
歯磨き中はどんな感染対策を行うべきですか？



A

普段私たちがマスクを着用するのは、会話や食事中に「飛沫を飛ばさないこと」「飛沫を吸い込まないこと」を目的としているからです。しかし歯磨きは会話中より飛沫が広がる可能性があります。学校や職場など、自宅以外で歯磨きをする時は「なるべく飛沫を飛ばさないように気を付ける」「複数人で同時に歯磨きをしない」ということに気を付けましょう。



栄養手帖 ■■ -食養室だより-

夏バテは、水分不足やビタミン・ミネラルの栄養不足、屋内外の温度差による自律神経の乱れ、睡眠不足が原因です。

症状は？

- だるさ
- 立ちくらみ、めまい
- 食欲不振
- 無気力
- 下痢、便秘

夏バテを防ごう！

今年の夏もうだるような暑さが続きそう。
事前の対策を心がけて、暑さに負けない体をつくりましょう。



夏バテの予防対策

① ビタミンB1を摂ろう

疲労改善に効果的なビタミンB1を含む、豚肉、レバー、うなぎ、大豆製品、玄米を積極的に摂取しましょう。

③ 食欲をアップさせよう

食欲がない時には香辛料や香味野菜、酸味を加えると食が進みます。胃腸を痛める原因になるので食べ過ぎには注意！

② ミネラルを摂ろう

汗をかくことでカリウムやカルシウムなどのミネラルが体外に。野菜や果物、牛乳や大豆製品、ひじきなどで補給を。

④ 規則正しい生活をしよう

1日3食、十分な睡眠。そして適度な運動は自律神経を整えます。運動時は必ず水分を補給するようにしましょう。

支えるひとたち



第21回 施設管理員

坂総合病院を、そして患者さんを支える人々。その「人となり」に迫ります。

この仕事に就いたのは60歳目前の時。「早期リタイアでのんびり生活をするか仕事を続けるか考えた時に『施設管理は年配の方でも活躍している』という話を聞いて転職を決意しました」。そんな佐々木さんの役割は、建物内の衛生環境を維持すること。「電気や空調、ボイラー設備だけでなく、水回りの不具合も点検するということ。ただ、以前勤めていた施設管理員の方が本格的な営繕・修理を行っていたそうで、私も修理屋さんだと勘違いされていたようです(笑)」。今や設備の正常な維持という「裏方仕事」と合わせ、なんでも屋」として不可欠な存在。守備範囲の広さに「常にスキルアップを目指している」とこやかに語りながら「継続している作業に関しても、既成概念にとらわれずに創意工夫をする習慣を身につけたいです」と教えてくれました。

次号は

〈臨床工芸室室長〉
菊地 徹



トラブルに早急に対応するための仕事道具。必需品の懐中電灯のほか、これまでの経験から携帯するようになった厳選アイテムが揃っています。



佐々木 明 (ささき あきら)
施設管理
(オリックス・ファシリティーズ株式会社)

湯田 真由美（ゆだ まゆみ）
主任

循環器病棟には、心筋梗塞や狭心症、不整脈・心不全、末梢血管疾患の患者さんが多く入院しています。閉塞性動脈硬化症や糖尿病、腎不全の患者さんの救済を目的として力を入れているのがフットケア回診。循環器科の佐々木伸也医師を中心に、形成外科医師や糖代謝科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、理学療法

士、作業療法士、義肢装具士、病棟看護師がチームメンバーとなつて回診を行ない、それぞれの視点で意見を交換しながら創治癒に向けた治療を行なっています。

日々の業務で目指しているのは、患者さんの状態が安定し、安心して帰宅ができること。そのために入院から退院時まで、医師や看護師、リハビリスタッフ、社会福祉士、退院支援看護師と連携して自宅退院に向けて必要な介護福祉サービスの調整を行なっています。特に心不全の患者さんは短期間で入院を繰り返すことが多いため、いかに次の入院までの期間を長くできるかを目的とした退院指導に力を入れています。

今後は患者さんとその家族が疾患や治療の必要性をしっかりと理解した上で退院後も安心して生活ができるよう、患者さん一人ひとりに合わせたきめ細やかな対応を心がけていきたいと思っています。

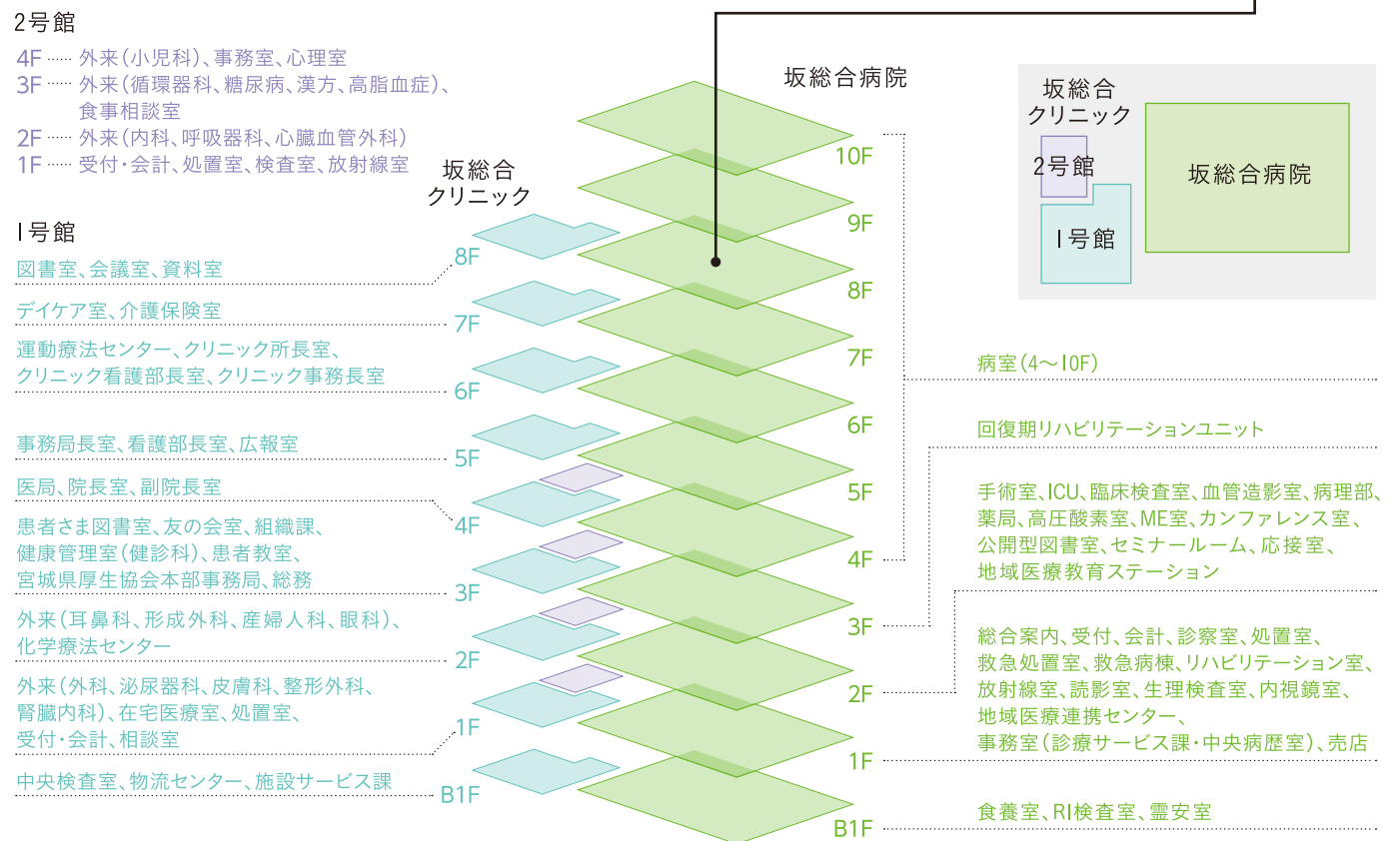


2号館

4F 外来(小児科)、事務室、心理室
3F 外来(循環器科、糖尿病、漢方、高脂血症)、食事相談室
2F 外来(内科、呼吸器科、心臓血管外科)
1F 受付・会計、処置室、検査室、放射線室

1号館

図書室、会議室、資料室
ダイケア室、介護保険室
運動療法センター、クリニック所長室、クリニック看護部長室、クリニック事務長室
事務局長室、看護部長室、広報室
医局、院長室、副院長室
患者さま図書室、友の会室、組織課、健康管理室(健診科)、患者教室、宮城県厚生協会本部事務局、総務
外来(耳鼻科、形成外科、産婦人科、眼科)、化学療法センター
外来(外科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、腎臓内科)、在宅医療室、処置室、受付・会計、相談室
中央検査室、物流センター、施設サービス課



連携医のご紹介

鈴木眼科医院

〔眼科〕



眼科
鈴木眼科医院

院長
鈴木 健史 先生
(すずき たけし)

〒985-0051
宮城県塩釜市宮町3-25
TEL 022-365-1523

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 - 12:00	○	○	○	△	○	○	△
14:00 - 17:00	○	○	○	△	○	△	△

休診日／木曜、土曜午後、日曜、祝日



強みを活かした眼科診療を

我々眼科医に欠かせないのが器械。これ無しでは「結膜炎」すら満足に診断できません。故に1974年に当院を開設し、現在も共に診療を行う母・昭子の口癖は「患者さんの為の器械はケチるな」。眼球を隈なく観察すべく、常に最新の医療機器を備えるよう心掛けております。例えば県内に僅か数台の「OPTOS超広角レーザー検眼鏡」は無散瞳で画角200度の眼底撮影が可能(他のカメラは50度)。通常は発見困難な小さな網膜剥離も瞬時に発見が可能で、失明や大手術を回避できた方が年に何人

もいらつしゃいます。「最近、蚊が飛んでいる」等とお感じの方は是非お越し下さい。

私の坂総合病院での最初の想い出と言えば旧病棟時。心筋梗塞で入院した祖母の付き添いでベッド脇に布団を敷き、2日間泊めて頂いた事がありました。当時の皆さまの献身的なお働きは鮮明に記憶に残っており、以来、坂総合病院には特別な敬意を抱いております。日頃よりお世話になってばかりですが、時には当院がお客様に立てる機会もあるかと思ひます。今後とも何とぞ宜しくお願い致します。

坂総合病院から

鈴木眼科医院には、当院の各科と併診している患者さんが多くいます。そうした患者さんとお話をする、鈴木先生が地域に根差した診療を続けていることや、皆さんからの信頼を強く感じます。地域の医療を支えるため、今後も良い関係を続けていければと思います。どうぞよろしくお願い致します。